

身近にある福祉

櫛形小学校

六年

永山 なみやま

悟字 ごう

僕は、福祉のことばかりしらなかつた。

そこで辞書やインターネットを使って調べ

みたら、福祉とは、「しわ寄せやゆたかさを意

味する言葉と書かれていた。

福祉は、僕たちが生活している身近な所に

たくさんある。たとえば、横断歩道が青信号

になると、音が流れて、目の不自由な人にし

らせてあげられる事が出来る。電車やバスの

優先席や駐車場には、優先スペースがある。

最近のDVDには、視覚障害の人のために、

ナレーションが自動で開始されるものがある。

それは、映像の合間に、場面の説明が入るも

のだ。確かにセリフだけのやりとりを聞くよ

り、風景やより具体的な状況がわかる事でも

っと多くの内容を理解できる親切な機能だと

思う。でも、セリフの間に簡結に説明を入れ

るのは、とても難しくすごい技術だと思ふ。

僕は、目が不自由な人がテレビを観たらど

うなのかを感じるために、目をつぶって聞いたり
てみた。何度も見ているCMなどはすぐに頭に
にうかんだけけれど、そうではないと内容がよく
く分かんたなかった。他にも身近には、歩道に
点状ブロックがある。僕は試しに目をつぶっ
て道路を歩いてみすが、一歩を踏み出すのも
怖くて数分もしないで目を開けてしまった。た
点状ブロックは、目の不自由な人にはとても
大事なものののだと実感した。

僕にちがあたり前に過ぎしている日常のあ
らゆる所にも、障害を持つ人には不便に感
じる所が多々あるのだと思う。インターネット
トにあつた、しあわせやゆたかさは誰にでも
平等に与えられるものなので、ふだんの生活
の中で皆んなが少しずつみたがいのことを考え
れば福祉になると思う。